

# ハートフルなんぶ

2026. 7月号 vol. 328

長野市立南部図書館  
〒388-8006  
長野市篠ノ井御幣川1201番地  
TEL (026) 292-0143  
FAX (026) 292-0559  
<https://library.nagano-ngn.ed.jp/>

## 夏季学習室のご利用について

夏休み期間中は平日も2階大会議室を学習室として利用できる日があります。

南部図書館 7 月学習室開放日							南部図書館 8 月学習室開放日						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4							1
			休館日	休館日	休館日	休館日							開放
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
休館日	休館日	休館日				開放	開放		休館日			開放	開放
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
開放		休館日				開放	開放	開放	休館日	開放	開放	開放	開放
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
開放	開放	休館日				×	開放	開放	休館日	開放	開放	開放	開放
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29
×		休館日	開放		休館日		開放		休館日				開放
※ 学習室開放時間 午前10時～午後5時30分まで（時間厳守） ※ 会議やイベントで使用するため解放できない日があります。 ※ 室内では、蓋つきの飲み物以外の飲食はできません。 ※ 2階の廊下で、昼食等の飲食が可能です。 ※ ゴミは必ず持ち帰ってください。							30	31					
							開放	休館日					

## 新刊案内

- 『あなたが正しくいられたとき』 芦沢 央／著 文藝春秋 <Fア>
- 『モナリザの裏側』 一色 さゆり／著 新潮社 <Fイ>
- 『風林火山のむすめ』 木下 昌輝／著 双葉社 <Fキ>
- 『みんな、好きが下手』 小林 早代子／著 新潮社 <Fコ>
- 『横浜共同租界』 佐々木 譲／著 光文社 <Fサ>
- 『江崎クリーニング店の娘』 鈴木 るりか／著 幻冬舎 <Fス>
- 『ここはこどものいない国』 武田 綾乃／著 講談社 <Fタ>
- 『食べて、寝て、しあわせ？』 伊吹 有喜・ほか／著 PHP 研究所 <Fタ>
- 『めぐる糸』 永井 紗耶子／著 双葉社 <Fナ>
- 『女じまい』 阿川 佐和子・伊藤 比呂美／著 中央公論新社 <914. 6ア>
- 『プリズン・ドクター』 アマンダ・ブラウン／著 草思社 <326フ>
- 『特捜取調室』 佐藤 優・西村 尚芳／著 新潮社 <327サ>
- 『野生動物の痕跡図鑑』 奥山 英治／著・写真 つり人社 <481オ>
- 『命を選ぶ』 下山 進／著 祥伝社 <495シ>
- 『松本レトロ建築さんぽ』 梅干野 成央・米山 文香／著 エクスナレッジ <N521ホ>

『うたってきいて』 青島 広志／絵・文 全音楽譜出版社 《760ア》

『ぼくの好きな音楽。』 マガジンハウス 《760ホ》

『天才たちのつくった音楽の世界』 辰巳出版 《762テ》

『歌うギリシャ神話』 彌勒 忠史／著 アルテスパブリッシング 《766ミ》

『検証・80年代日本のロック』 小島 智／著 アルファベータブックス 《764コ》

『遠藤実不滅の30曲』 塩澤 実信／著 展望社 《767エ》

『信州後世に遺したい歌50選』 鹿島 岳水／著 ほおずき書籍 《767カ》

『短歌の詰め合わせ』 東 直子／文 若井 麻奈美／絵 アリス館 《911. 16ヒ》

『百人一首バトル』 栗木 京子・ほか／編 書肆侃侃房 《911. 16ヒ》

『古池に飛びこんだのはなにガエル?』 稲垣 栄洋／著 辰巳出版 《911. 3イ》



## 7月のテーマ 「歌・短歌・俳句」



# ESSAY

## 歌・短歌・俳句



寄稿：ひよこ豆

短歌は5・7・5・7・7の5句31音からなる形式の詩で古くからありますが、和歌がみやびな短歌なのに対して、俗な言葉でしゃれや風刺を利かせた短歌を狂歌といいます。

昨年NHK大河ドラマ「べらぼう」では、江戸時代中期に幕府の田沼意次の商業重視の政策に批判的な白河藩出身の松平定信が、質素儉約・武家の文武奨励を勧めました。定信の改革に期待した庶民のあいだでこんな狂歌がはやりました。

田や沼や にごれる御代を あらためて 清く済ませよ 白河の水  
ところが定信の改革が庶民にとって厳しく感じられ、こんな狂歌が生まれました。

白河の 清き魚も 住みかねて 元のごりの 田沼恋しき

ことわざに「水清ければ魚住まず」というのがありますが、潔癖すぎる定信の方針では庶民も暮らしにくかったのでしょう。

定信の側室の子は、松代藩に入って真田家八代藩主となり幸貫と名乗りました。幸貫公も父定信を見習い質素儉約につとめ、松代藩士たちに文武両道を奨励し、様々な藩の改革を行い、佐久間象山のような優秀な人材を登用しました。しかしその結果、藩内に対立し合う派閥が生まれました。そのころ松代にいた狂歌師の蘭薫亭薫（らんくんていかおる）が幸貫公の政策を批判する狂歌を作りました。

白河の 大泥水が 押し込んで 真田の稲を 台無しにする

これを知った幸貫公が怒って捕えようとしたため、蘭薫亭薫は藩を逃げ出しました。のちに許されたようで、松代に帰り明治3年に亡くなりました。松代の龍泉寺の三浦家のお墓に薫の墓石が並んでいて、側面にはこんな歌が刻まれています。

土となる あの世も友と 頼むなむ 山にいる月 根にかへる花



参考文献

『松代町史 下巻』大平喜間多



## 南部図書館 開館カレンダー



### 2026年7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

### 2026年8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

開館時間：午前10時～午後6時

■ は休館日です